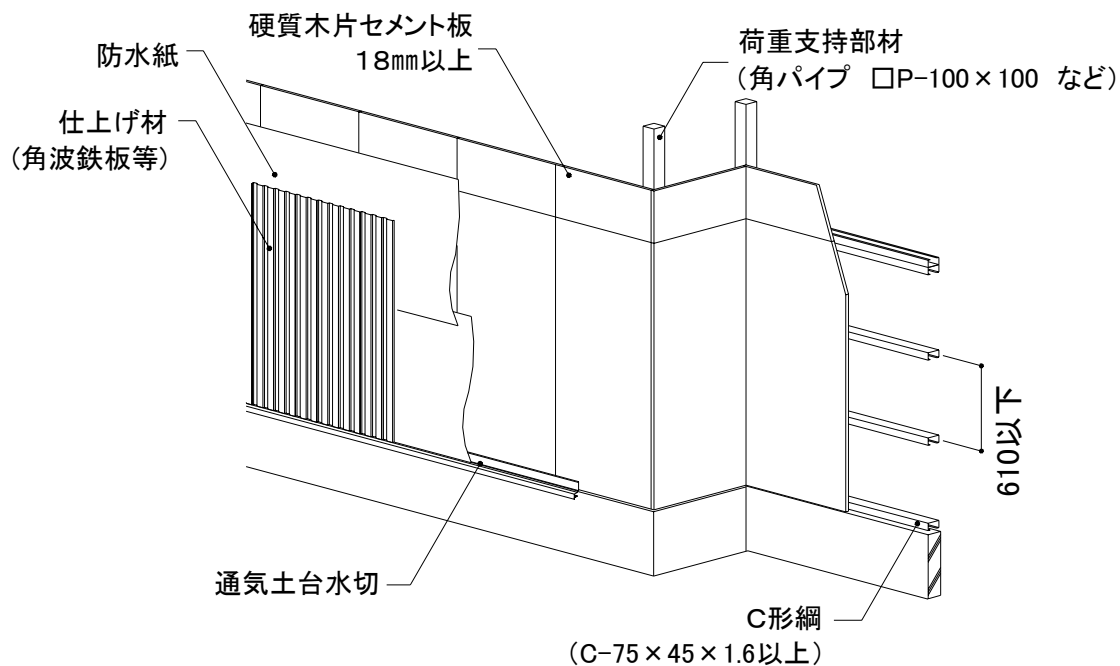


4-2 外壁下地用途

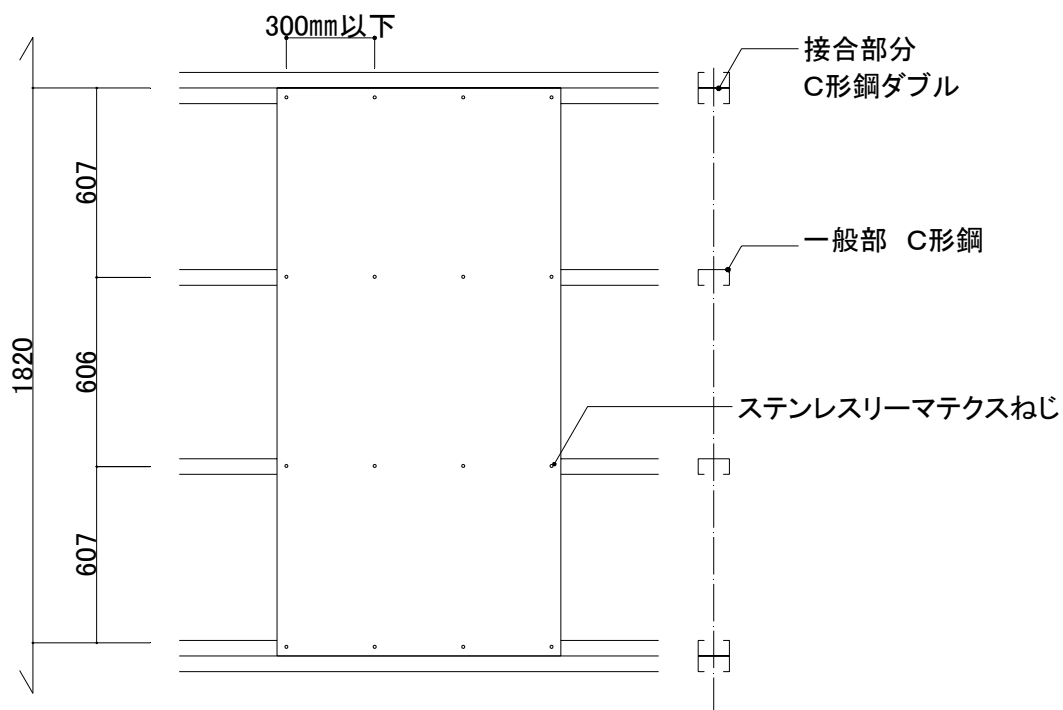
①施工例

建設省告示第1380号 第1三号ロ(1)及び四号ロに規定される60分準耐火構造の外壁の屋外側防火被覆に関する施工例(鉄骨造)を以下に示します。詳細については、組合加盟の取扱メーカーへお問い合わせ下さい。

(イ) 標準施工例



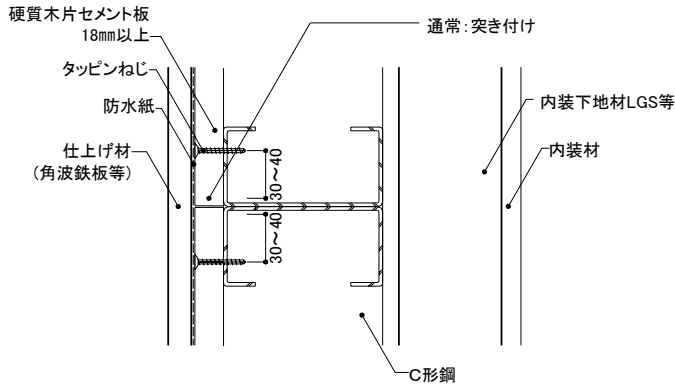
(ロ) 下地割付の例



(ハ) 施工例の詳細

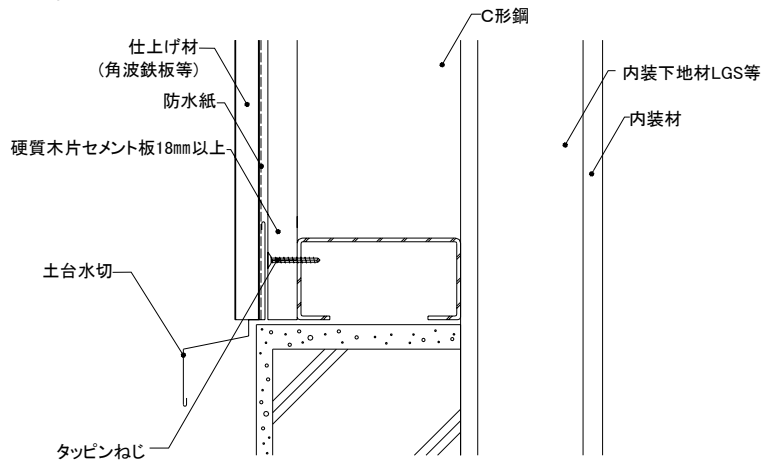
上下接合部

●上下接合部は、軽く突き付けてください。

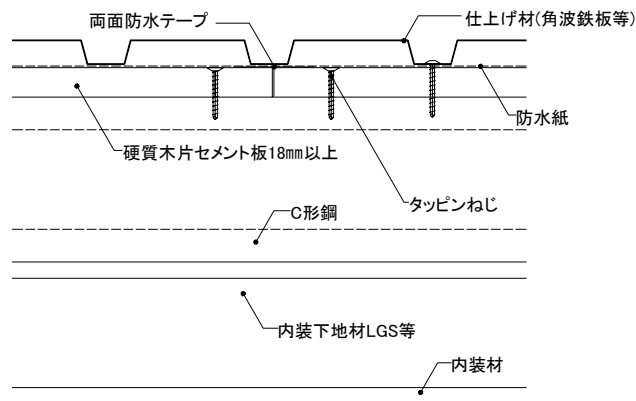


※ 屋内側防火被覆(内装材)は平成12年建設省告示第1380号 第1第1号ロ(1)~(5)の防火被覆の一(以下、同じ)

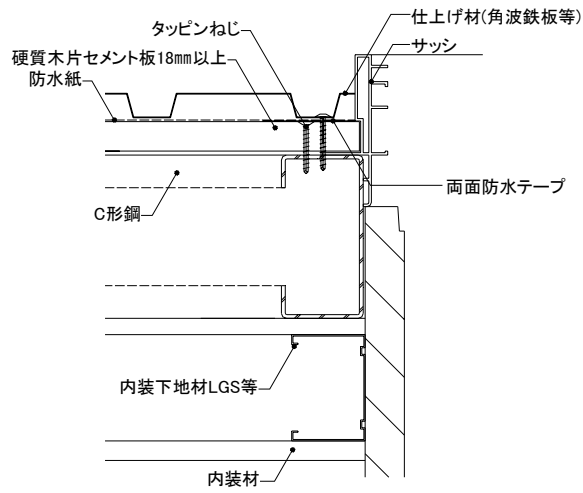
土台部



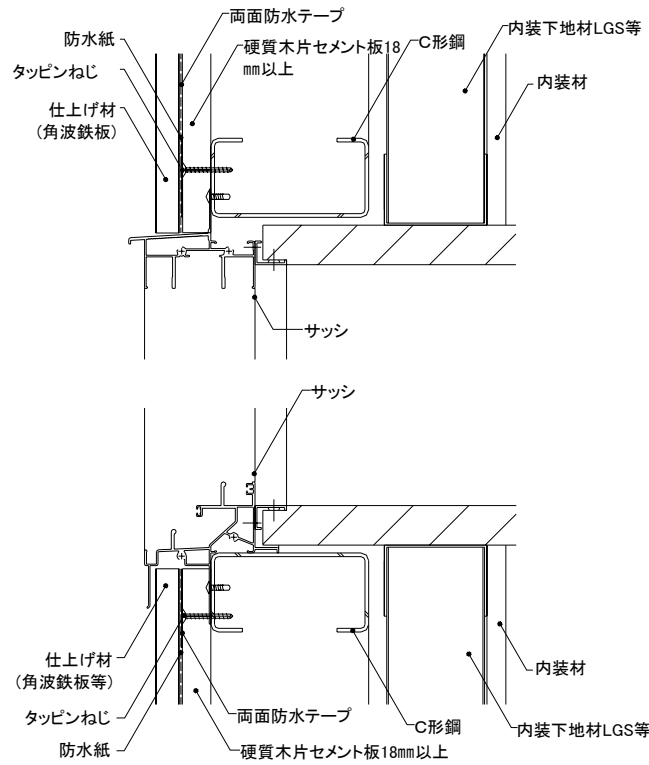
左右接合部 <通常: 突き付け>



開口部左右



開口部上下



②施工上・安全衛生上の注意事項

(イ) 下地組み

- ・鋼材は軽量形鋼C-75×45×1.6以上を使用し、柱に受けアングル(ねこ)を介して610mm以下の間隔に留め付けてください。
- ・野地板の施工前には、鉄骨下地の原寸チェックを行ってください。留め付け不良、板割れを防止し、ロス率の軽減になります。

(ロ) 硬質木片セメント板の切断

- ・チップソーを取り付けた電動丸鋸か、スレート鋸を用いて切断してください。
- ・切断時には粉塵が発生しますので、切断器具には粉塵吸引装置を設け、また正規の作業服を着用の上、防塵マスク、防護メガネ等を使用してください。
- ・狭い場所で多量の切断作業を行う場合は、十分な外気の導入を行い、粉塵量を低下させてください。
- ・切断時に出た粉塵が目に入った場合は、こすらないで流水で洗浄してください。また、吸引した場合はうがい等を行い、粉塵を洗い流してください。

(ハ) 硬質木片セメント板の施工・作業

- ・常時水に接する環境での使用は避けてください。
- ・硬質木片セメント板は突き付けとしてください。
- ・割付に従って、ドリリングタッピンねじ(ステンレスリーマテクスねじ4φ×50mm以上)などを使用し、端部から30~40mm程度内側に300mm以下の間隔で留め付けてください。

(ニ) 外装材の留め付け

- ・硬質木片セメント板の施工後は、すみやかに防水紙を施工してください。
 - ・土台水切は防水紙張りの前に取り付け、防水紙を水切の立ち上がり部にかぶせて施工してください。
 - ・硬質木片セメント板が雨に濡れた場合は、充分乾燥させた後、防水紙を施工してください。雨に濡れたままの施工は、しみ、汚れ、波打ち、強度低下等の原因になります。
 - ・外装材に使用する角波鉄板などは、耐風圧力(負圧)などを考慮した間隔で下地の軽量形鋼にタッピンねじで留め付けてください。
 - ・詳細部の納まりは、外装材の施工仕様に準じてください。
- ※60分準耐火構造の外壁では、屋外側の他、屋内側にも防火被覆が必要です。屋内側防火被覆の仕様については、建設省告示第1380号 第1三号ロ(1)及び四号ロ(同告示 第1第1号ロ(1)~(5)の防火被覆の一)の規定に従ってください。